

【地図】

## 地 図

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
2	東 書	新編 新しい社会 地図
46	帝 国	中学校社会科地図

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	地図の見方の記載とその内容
		② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例
		③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	環境・国際理解等の学習への活用
(イ)	主体的に学習に取り組む工夫	④ 興味・関心を高めるための工夫	興味・関心を高めるための記載内容
		⑤ 課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫	課題を追究するための資料の構成
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑥ 題材や資料等の配列	内容の構成と配列及びページ数
(エ)	内容の表現・表記	⑦ 学習内容との適切な関連付けがなされた地図や資料等の取扱い	地図の種類と縮尺及び資料等の活用方法の示し方
(オ)	言語活動の充実	⑧ 観察・調査や各種資料の活用の工夫	地図を活用した調べ方の事例
		⑨ 目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫	地図を活用した表現の記載の仕方と具体例

【地図】

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>	
	<b>視点</b>	①題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫
	<b>方法</b>	地図の見方の記載とその内容

地図の見方の記載とその内容	
<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭ページに「この地図帳の地図記号」を記載している。巻末ページの「地形図の比較」で地図記号を記載している。</li> <li>○ 「この地図帳の活用方法」を巻頭に設けて、この地図帳の使い方を記載している。</li> <li>○ 地域の特徴的な「注目したい記号」を記載している。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭ページに「この地図帳の記号凡例」を記載し、「国土地理院の地形図を読みとろう」で「地形図の主な記号」を記載している。それ以外の記号は「特別凡例」として、該当ページごとに記載している。</li> <li>○ 「この地図帳の使い方」を巻頭に設けて、この地図帳の使い方を記載している。</li> <li>○ 地図を見る上での着眼点を示した「地図を見る目」を記載している。</li> </ul>

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>	
	<b>視点</b>	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
	<b>方法</b>	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例

	国土の地理的環境の例	歴史的事象の例
<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「日本の周辺」で近隣諸国を含む地理的環境を記載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻末の「資料さくいん」に歴史の項目がある。</li> <li>○ 日本の各地方で掲載されている歴史に関する資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「原子爆弾投下時の広島市」</li> <li>・「江戸時代（17世紀末ごろ）の大阪」</li> <li>・「京都市の主な文化財と観光地」</li> <li>・「奈良市の主な文化財と観光地」</li> <li>・「京町家」</li> <li>・「神戸市の旧外国人居留地」</li> <li>・「アイヌ語に由来する地名」</li> </ul> </li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「日本の位置とまわりの国々」で近隣諸国を含む地理的環境を記載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の各地方で掲載されている歴史に関する資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「長崎市」</li> <li>・「広島市付近」</li> <li>・「京都・奈良」</li> <li>・「元禄年間の大阪」</li> <li>・「明日香村周辺」</li> <li>・「京都市中心部」</li> <li>・「斑鳩」</li> <li>・「奈良市中心部」</li> <li>・「街道の昔と今」</li> <li>・「東海道を東へ西へ」</li> <li>・「世界遺産 富士山」</li> <li>・「江戸」</li> <li>・「開拓の歴史とアイヌ語地名」</li> <li>・「日本とロシア・ソ連の国境の変遷」</li> </ul> </li> </ul>

【地図】

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
<b>方法</b>	環境・国際理解等の学習への活用

	環境学習への活用	国際理解等の学習への活用
<b>東 書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の環境①, 世界の環境②を掲載している。</li> <li>○ 日本の自然環境(災害・環境問題)を掲載している。</li> <li>○ 巻末の「資料さくいん」に、「環境, 防災・安全」の項目がある。</li> <li>○ 「環境, 防災・安全」の項目で掲載している資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の植生と世界自然遺産」</li> <li>・「さまざまな環境問題」</li> <li>・「世界の二酸化炭素排出量」</li> <li>・「日本によるODA(政府開発援助)－JICA(国際協力機構)の環境保全の取り組み－」</li> <li>・「アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採」</li> <li>・「台風や土砂災害の被害を受けやすい地域」</li> <li>・「九州地方の火山と温泉・地熱発電所」</li> <li>・「水俣病の市町村ごとの認定患者数」</li> <li>・「環境都市を目指す北九州市」</li> <li>・「東北地方の冷害と各県の銘柄米の生産」</li> <li>・「東日本大震災による被害」</li> <li>・「北海道の地形と自然災害」</li> <li>・「火山と地震の分布」</li> <li>・「日本の主な気象災害」</li> <li>・「ハザードマップの例」</li> <li>・「東日本大震災の地震と津波」</li> <li>・「日本の高度経済成長期の公害」</li> <li>・「日本の国立公園・ラムサール条約登録湿地・ジオパーク」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の国旗を各地域の一般図に掲載している。</li> <li>○ 巻末の「資料さくいん」に「結び付き」の項目がある。</li> <li>○ 「結び付き」に掲載されている資料の内, 日本と世界の結び付きに関する資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本と韓国の航空路とフェリーの航路」</li> <li>・「日本の品目別輸入先」</li> <li>・「NAFTA(北アメリカ自由貿易協定)の結び付き」</li> <li>・「オーストラリアの輸出相手国の変化」</li> <li>・「オーストラリアへの旅行者の変化」</li> <li>・「世界との結び付き」</li> <li>・「日本の輸入」</li> <li>・「日本の輸出」</li> <li>・「日本の貿易」</li> <li>・「日本－ヨーロッパ間の所要時間とルートの変化」</li> <li>・「世界の航空路」</li> <li>・「世界のインターネットの利用率」</li> <li>・「日本の在留外国人数」</li> <li>・「世界の観光」</li> <li>・「世界の国々の結び付き」</li> </ul> </li> </ul>
<b>帝 国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の環境問題を掲載している。</li> <li>○ 日本の地形と守りたい自然環境を掲載している。</li> <li>○ 日本の災害と防災を掲載している。</li> <li>○ 環境問題の資料を表わす「環境」という表記がある。</li> <li>○ 「環境」に掲載されている資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大気汚染」</li> <li>・「森林の変化」</li> <li>・「サウジアラビアの砂漠の農地化」</li> <li>・「アマゾン盆地(ブラジル)の森林の減少」</li> <li>・「琵琶湖の水利用, 琵琶湖の透明度の変化」</li> <li>・「藤前干潟の環境保護」</li> <li>・「ヒートアイランド現象の広がり」</li> <li>・「白神山地の自然保護」</li> <li>・「釧路湿原」</li> </ul> </li> <li>○ 防災に関する資料を表す「防災」という表記がある。</li> <li>○ 「防災」に掲載されている資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「神戸市付近のようす」</li> <li>・「洪水への備え」</li> <li>・「都市型洪水へのそなえ」</li> <li>・「震災からの復興のようす」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の国旗を各地域の一般図に掲載している。</li> <li>○ 日本との結び付きを示す資料がある。</li> <li>○ 「日本との結びつき」に掲載されている資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「経済の結びつき」</li> <li>・「現代のさまざまな結びつき」</li> <li>・「おもな産物・製品の日本への輸出国」</li> <li>・「南アジアのおもな国の日本への輸出」「インドに進出した日本企業」</li> <li>・「西アジア諸国の原油の輸出先」</li> <li>・「おもな国の日本への輸出」</li> <li>・「日本がヨーロッパから輸入する商品」</li> <li>・「極東ロシアの資源と貿易」</li> <li>・「人の行き来」「貿易」「日本の工場の進出」</li> <li>・「日本からの移民」</li> <li>・「旅行者数の変化」</li> </ul> </li> </ul>

【地図】

<b>観点</b>	<b>(イ) 主体的に学習に取り組む工夫</b>	
	<b>視点</b>	④興味・関心を高めるための工夫
	<b>方法</b>	興味・関心を高めるための記載内容

興味・関心を高めるための記載内容	
<b>東書</b>	○ 資料についての理解を促し，考察を深められるように読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを記載している。
<b>帝国</b>	○ 地図活用のスキルが身につくよう，また，地図への着眼点が理解できるように，地図を見る上での着眼点を示した「地図をみる目」，地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を記載している。

<b>観点</b>	<b>(イ) 主体的に学習に取り組む工夫</b>	
	<b>視点</b>	⑤課題の設定，整理・分析，振り返りを展開するための構成上の工夫
	<b>方法</b>	課題を追究するための資料の構成

課題を追究するための資料の構成																							
<b>東書</b>	<p>○ 世界では州ごと，日本では地方ごとに，一般図の次に基本資料とテーマ資料を掲載している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;">中国・四国地方</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中国・四国地方の基本資料</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①中国・四国地方の自然環境</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②中国・四国地方の降水量</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③中国・四国地方の人口密度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④中国・四国地方の工業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤中国・四国地方の農業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中国・四国地方のテーマ資料</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①中国・四国地方の老年人口の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②原子爆弾投下時の広島市</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③高速道路や橋の変化</td> </tr> </table>		中国・四国地方		中国・四国地方の基本資料		①中国・四国地方の自然環境		②中国・四国地方の降水量		③中国・四国地方の人口密度		④中国・四国地方の工業		⑤中国・四国地方の農業		中国・四国地方のテーマ資料		①中国・四国地方の老年人口の割合		②原子爆弾投下時の広島市		③高速道路や橋の変化
	中国・四国地方																						
	中国・四国地方の基本資料																						
	①中国・四国地方の自然環境																						
	②中国・四国地方の降水量																						
	③中国・四国地方の人口密度																						
	④中国・四国地方の工業																						
	⑤中国・四国地方の農業																						
	中国・四国地方のテーマ資料																						
	①中国・四国地方の老年人口の割合																						
	②原子爆弾投下時の広島市																						
	③高速道路や橋の変化																						
<b>帝国</b>	<p>○ 世界では州ごと，日本では地方ごとに，基本図の次に資料図を掲載している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;">中国・四国地方</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中国・四国地方の資料図</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①中国・四国地方の自然・産業・暮らし</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②広島市付近</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③地域によって異なる中国・四国地方の農業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④中国・四国地方の工業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤中国・四国地方の交通の変化</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑥鳥取砂丘</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑦八幡浜市のみかん栽培</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑧高知平野の野菜栽培</td> </tr> </table>		中国・四国地方		中国・四国地方の資料図		①中国・四国地方の自然・産業・暮らし		②広島市付近		③地域によって異なる中国・四国地方の農業		④中国・四国地方の工業		⑤中国・四国地方の交通の変化		⑥鳥取砂丘		⑦八幡浜市のみかん栽培		⑧高知平野の野菜栽培		
	中国・四国地方																						
	中国・四国地方の資料図																						
	①中国・四国地方の自然・産業・暮らし																						
	②広島市付近																						
	③地域によって異なる中国・四国地方の農業																						
	④中国・四国地方の工業																						
	⑤中国・四国地方の交通の変化																						
	⑥鳥取砂丘																						
	⑦八幡浜市のみかん栽培																						
	⑧高知平野の野菜栽培																						

【地図】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑥ 題材や資料等の配列
方法	内容の構成と配列及びページ数

	構成	配列	ページ数
東 書	○ A B判(タテがB 5判, ヨコがA 4判 サイズ)  ○ 世界, 日本, 統計, さくいんに分類し, インデックスで色分けしている。	① 世界の資料図 世界の地形, 世界の気候, 世界の環境①, 世界の環境②, 世界の生活・文化①, 世界の生活・文化②	12
		② 世界の諸地域	54
		③ 日本の諸地域	58
		④ 日本の資料図 日本の自然環境(地形), 日本の自然環境(気候) 日本の自然環境(災害・環境問題), 世界と日本の人口, 世界と日本の資源・エネルギー①, 世界と日本の資源・エネルギー②, 世界の農林水産業, 日本の農林水産業, 日本の工業, 世界の工業, 世界と日本の貿易, 世界と日本の交通・通信網, 世界と日本の結び付き, 日本の生活と文化, 世界の文化	25
		⑤ 統計	10
		⑥ さくいん	13
		⑦ 巻頭・巻末 ○ 巻頭 世界全図, この地図帳の地図記号, この地図帳の活用方法 ○ 巻末 都道府県の産品と名所・お国自慢など, 地形図の比較, 日本の周辺, 旧国名, 都道府県の区分	11
		総ページ数	183
帝 国	○ A B判(タテがB 5判, ヨコがA 4判 サイズ)  ○ 使い方・資料図, 世界, 日本, 統計, さくいんで分類し, インデックスで色分けしている。	① 使い方・資料図 ○ 使い方 この地図帳の記号凡例, この地図帳の使い方 地図帳の構成—オーストラリアを例に—, 地域の特色をとらえるポイント—北陸の3県を例に—, 国土地理院の地形図を読みとろう ○ 世界の資料図 世界の地形, 世界の気候, 世界の環境問題, 世界の生活・文化(1), 世界の生活・文化(2)	15
		② 世界の諸地域	56
		③ 日本の諸地域	64
		④ 日本の資料図 日本の地形と守りたい自然環境, 日本の気候, 日本の災害と防災, 世界と日本の人口, 世界と日本の資源・エネルギー, 日本の工業, 世界と日本の農業・水産業, 世界と日本の交通・通信網, 日本の生活・文化	17
		⑤ 統計	9
		⑥ さくいん	9
		⑦ 巻頭・巻末 ○ 巻頭 世界の国々 ○ 巻末 昔の国名と国境, 都道府県, 日本の位置とまわりの国々, 領土・領海・領空の範囲(模式図), おもな国の排他的経済水域の面積, 日本の東西南北端	6
		総ページ数	176

【地図】

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑦学習内容との適切な関連付けがなされた地図や資料等の取扱い
方法	地図の種類と縮尺及び資料等の活用方法の示し方

	地図の種類と縮尺		資料等の活用方法の示し方
東書	世界全図	○ 赤道上の距離を示している。	○ 関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設けている。
	広域地図, 大陸地図	○ 3500 万分の 1 ~6000 万分の 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーラシア・オーストラリア・北極圏 (4500 万分の 1)</li> <li>・ヨーロッパ・アフリカ (3500 万分の 1)</li> <li>・環大西洋 (6000 万分の 1)</li> <li>・南北アメリカ (4500 万分の 1)</li> <li>・環太平洋, 環インド洋 (6000 万分の 1)</li> </ul>	
	各州地図	○ 1500 万分の 1 ~4500 万分の 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア (1600 万分の 1)</li> <li>・東南アジア・南アジア (2500 万分の 1)</li> <li>・西アジア・環地中海 (2000 万分の 1)</li> <li>・ヨーロッパ (1600 万分の 1)</li> <li>・ロシア連邦 (2200 万分の 1)</li> <li>・アメリカ合衆国 (1500 万分の 1)</li> <li>・南アメリカ州 (3000 万分の 1)</li> <li>・オーストラリア・ニュージーランド (2000 万分の 1)</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ中央 (900 万分の 1)</li> <li>・朝鮮半島 (500 万分の 1)</li> <li>・イスラエル周辺 (300 万分の 1)</li> </ul>	
	日本全体	○ 550 万分の 1	
	日本の各地方地図	○ 100 万分の 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地方, 中国地方, 四国地方, 近畿地方, 中部地方, 関東地方, 東北地方</li> <li>・北海道地方南部, 北海道地方北部 (北海道地方は 200 万分の 1)</li> </ul>	
	日本のある地域の拡大図	○ 50 万分の 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄島</li> <li>・福岡県とその周り</li> <li>・広島市・岡山市周辺</li> <li>・大阪府とその周り</li> <li>・愛知県とその周り</li> <li>・東京都とその周り</li> <li>・仙台市とその周り</li> <li>・札幌市周辺</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南西諸島 (550 万分の 1)</li> </ul>	

【地図】

帝 国	世界全図	○ 11600 万分の 1, 赤道上の長さを示している。	○ 地図活用の技能が身につくように「地図を見る目」や「やってみよう」を掲載している。
	広域地図, 大陸地図	○ 3500 万分の 1~6000 万分の 1 ・アジア州 (4200 万分の 1) ・アフリカ州 (3500 万分の 1) ・南北アメリカ (4500 万分の 1) ・大西洋 (6000 万分の 1) ・太平洋・インド洋 (6000 万分の 1)	
	各州地図	○ 1600 万分の 1~3000 万分の 1 ・東アジア (1600 万分の 1) ・東南アジア (2000 万分の 1) ・南・西・中央アジア (2000 万分の 1) ・ヨーロッパ (1600 万分の 1) ・ロシア連邦とまわりの国々 (2200 万分の 1) ・アメリカ合衆国 (1600 万分の 1) ・南アメリカ (3000 万分の 1) ・オーストラリア・ニュージーランド (2000 万分の 1)	
	その他	・ヨーロッパ中央部 (800 万分の 1) ・朝鮮半島 (300 万分の 1) ・イスラエル・パレスチナ (250 万分の 1)	
	日本列島	○ 400 万分の 1	
	日本の各地方地図	○ 100 万分の 1 ・九州地方, 中国地方, 四国地方, 近畿地方, 中部地方, 関東地方, 東北地方 ・北海道地方南部, 北海道地方北部 (北海道地方は 200 万分の 1)	
	日本のある地域の拡大図	○ 50 万分の 1 ・沖縄島 ・九州地方北部 ・広島市周辺 ・香川県 ・大阪府とそのまわり ・愛知県とそのまわり ・東京都とそのまわり ・仙台市とそのまわり	
	その他	・南西諸島 (400 万分の 1)	

【地図】

<b>観点</b>	<b>(オ) 言語活動の充実</b>
<b>視点</b>	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫
<b>方法</b>	地図を活用した調べ方の事例

地図を活用した調べ方の事例	
<b>東 書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヨーロッパを例にして「この地図帳の活用方法」を巻頭に記載している。</li> <li>・一般図を記載し、国旗、ページ番号・インデックス、位置図、タイトル、さくいん記号等についての解説を記載している。</li> <li>・「ヨーロッパ州の基本資料」「テーマ資料」(EU加盟国の拡大、ヨーロッパの自動車工場の分布)を記載し、それぞれの資料についての解説を記載している。</li> <li>・キャラクターによる吹き出しによる解説を記載している。</li> </ul>
<b>帝 国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オーストラリアを例にして「この地図帳の使い方」が巻頭に記載している。</li> <li>・一般図が記載され、ページのタイトルと縮尺、隣接ページ、さくいん記号、インデックス、経線、緯線、学習課題、位置図、同緯度同経度同縮尺の日本、記号の凡例(特別凡例)等についての解説を記載している。</li> <li>・「オセアニア州の資料図」(オセアニア州の自然・産業・暮らし、人口密度、牛と羊の分布、豊かな鉱産資源、外国との結びつき)についての解説を記載している。</li> <li>・囲み文やキャラクターによる吹き出しによる解説を記載している。</li> </ul>

<b>観点</b>	<b>(オ) 言語活動の充実</b>
<b>視点</b>	⑨目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
<b>方法</b>	地図を活用した表現の記載の仕方と具体例

地図を活用した表現の記載の仕方と具体例	
<b>東 書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを19カ所設けている。 【具体例】「交通量や輸送量が多いところには、どんな特徴があるかな。」</li> </ul>
<b>帝 国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」というコーナーを47カ所設けている。 【具体例】「金属や石油・化学の工場にマーカーし、この地域に立地した理由を輸送の面から考えてみよう。」</li> </ul>